

氏名(本籍)	まえ かわ けい じ (福井県)		
学位の種類	博 士 (文 学)		
学位記番号	博 乙 第 954 号		
学位授与年月日	平成 6 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当		
審査研究科	歴史・人類学研究科		
学位論文題目	AUSTRALIAN SOCIO - ECONOMIC INFLUENCES ON BADU, TORRES STRAIT - "Strategic Adaptation" of Middlemen and "Translative Adaptation" of the Community - トレス海峡・バドゥ島におけるオーストラリアの社会経済的影響 -境界人の「戦略的適応」と共同体の「翻訳的適応」-		
主査	筑波大学教授	文学博士	牛 島 巖
副査	筑波大学助教授		小野澤 正 喜
副査	筑波大学助教授	理学博士	佐 藤 俊
副査	筑波大学教授		明 石 紀 雄
副査	東京大学助教授	Ph. D	舟 曳 建 夫

論 文 の 要 旨

本論文は英文で書かれているが、トレス海峡社会の変化は、西洋文化に対する「土着の側からの文化の解釈」（外部のものを自ら読み替える）という人類学的視点（内部からみる視点に立つとどう見えるか）から論述されたものである。西洋文化と接触した社会は、土着の文化コンテクストをフィルターにして変化するという論旨が展開する。社会変化理論とバドゥ島共同体について先行研究の検討、イセエビ漁業といった商品－市場経済のための「生産」に関する記述と分析、そして島民の消費動向と儀礼的な「消費」の考察の3部から構成され、285頁からなる全体は、6章と終章、ならびに25頁の注釈に分けられる。

第1部「理論と社会史」では、これまでの人類学における社会変化論と文化的適応理論を詳細に検討して、西洋と土着の異なった文化システム間に生じた歴史的な相互関係として社会変化をとらえる視野が検討される。伝統社会の外部社会に対する適応過程には当該社会の「主体」が重要な役割を演じている。

それには二つの側面があり、一つ目は、共同体内のある特定の制度や機会を、当該社会内部での自らの利益や立場に有益なものとして戦略的に用いる側面、二つ目は、外部から導入された文化、社会、経済の諸制度に対する当該社会の成員による解釈やそれに基づく慣行の側面である。この枠組みから、

メラネシアの一伝統社会が、外部の白人オーストラリア社会の市場経済と商品経済に対してどのように対応してきたのが考察できると主張する。

第2部の「生産」を扱った3章と4章では、トレス海峡社会の歴史、国家ならびに世界的な資本主義商業システムといった外部の力との関係、社会・文化的及び生態的条件に即した島社会の再構成と分析、商品生産の浸透と生業的生産の衰退、19世紀後半の真珠採集業の開始などが詳細に記述・検討される。そして、この地域における商業的生産の機会が常に外部の政府機関によってもたらされてきたこと、トレス海峡の中心地の一つであるバドゥ島では80年代にはいってイセエビ漁により経済的興隆がみられたこと、この漁もオーストラリア連邦政府機関の資金援助政策によって産業復興のきっかけが与えられたという経緯があったことなどが指摘される。

5章では、こうした外部からの働きかけに対して、バドゥ島で初めて私企業を設立する企業家たちの行為が検討される。二つの社会の「境界人 (Middlemen)」である彼らは、各々の立場に基づいてこの機会を利用して、資本主義的生産形態へと積極的に適応していった。この生産局面における適応は、市場経済の浸透過程に対する「戦略的適応」として理解できること、各企業家は共同体内の自らの立場に立脚した「戦略」を用いながら、利益を追求し、自己の威信と地位の強化をはかってきたことなどが、企業家たちの具体的な行為に基づいて論述される。

第3部の「消費」を扱った6章と7章では、まず島民の日常的な消費動向が分析される。イセエビ漁による収入によって商品の購買力が増強されたが、外来商品を他の村人と競いあって、一家の地位と影響力を示すかのように購入するという、現象があらわれた。この現象は、商品フェティシズムに深く飲み込まれたものである。

同時期にみられた注目すべき現象は、死者の親族による墓石除幕儀礼 (二次的葬儀) の隆盛である。この現象はイセエビ漁によって市場経済が深く浸透したことに対する共同体としての体系的適応として捉えられるだけでなく、この儀礼は今なおトレス海峡の島の共同体全体にかかわる「全体的社会事実」(M. モース)とも呼べる伝統的なものである。しかし、この儀礼自体がキリスト教の慣行に対する適応の産物である。

この儀礼は、島民の収入の増大に伴って大規模になってきたが、富を盛大に消費する場を提供してきた。そこで、死者の親族はこの儀礼の成功によって名誉と威信を保つことができる。このような現象は、名誉と威信に基づく共同体の伝統的な文化形態 (贈与と分配) による、市場経済原理およびそれに基づく制度に対する「翻訳的適応」の結果として理解されることが究明される。

終章では、本論の資料と分析による知見にもとづいて、社会変化論という脈絡のなかでの理論的一般化がおこなわれる。贈与型経済と貨幣-市場経済は根本的に異なる経済機構であるが、バドゥ島社会にみられる変化の過程は贈与経済から商品-市場経済への変容ではなく、商品-市場経済の贈与経済への変容である。このような変化の過程を、外来的な近代化制度に対する土着の社会による解釈=翻訳の結果とみなせる。そして、商品-市場経済のための生産 (イセエビ漁) が土着の経済のための消費 (墓石除幕儀礼) に連動することにより、近代的生産形態が伝統的消費形態に吸収されてきた、と結論づけられる。

審 査 の 要 旨

本論文は、土着の経済が市場経済の影響に接したとき何が起こるのか、当該の経済はどう変化するかという、これまでさほど明らかにされてこなかった点を、土着の人々の「文化の翻訳」という視野から接近をこころみた意欲的な民族誌的研究である。その特徴は、生産と消費の二つの局面における島民の適応過程が、この地域の社会変化の過程となっていることを示し得たことといえる。その論点は以下の6点である。

1) 特定の主体の文化的実践としての行為と認知過程の様式の中に文化的自立性をみることができる。2) 外来的な資本主義的生産形態へと積極的に適応していった企業家を、異なる社会体系を媒介する境界人の代表とみなすことができるが、その個々人の行為は戦略的適応という視点から理解できる。3) 従来の社会変化論や近代化論は贈与型経済から近代市場経済への移行を想定しがちであったが、儀礼的消費の現代的展開に目を向けることが肝要である。4) ニューギニア高地で指摘されている商品の贈与への変換という現象に類似したものが、トレス海峡社会においても墓石除幕儀礼というかたちで認められる。5) この商品－市場経済の贈与経済への変容は、外来的な市場経済を土着の贈与経済というフィルターを通して翻訳したものである。そして、6) 生産（イセエビ漁）が消費（墓石除幕儀礼）に連動することにより、近代的生産形態が伝統的消費形態に吸収された。

これらの論点は、社会変化に対する明白な問題意識と理論的枠組みの検討に支えられ、変化の過程を詳細に記述することで説得力を発揮しているが、いくつかの問題点がある。それは、「翻訳的適応」という用語の妥当性に関して、それが抽象度が高い用語であるので、理論上の汎用性に懸念が生じること、二つの世界を知っている境界人にとって翻訳とは何か、などの理論的検討の進展が望まれること、さらに記述が詳細すぎるがゆえに、煩雑な感じを受ける箇所がみられるほか、図表の提示にも工夫の余地がのこされていること、などである。

以上の問題点があるが、本論文は従来の社会変化論に対して新たな理論的枠組みを提示し、さらに新しい民族誌の記述の方法を示している点が高く評価される。

よって、著者は博士（文学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。